

刊夕日四十月八

常磐每日新聞

定額 一部金五圓 金五圓 郵費五圓
廣告料 五圓以上 一行金五圓 餘額
日曜祭日の日休刊
發行所 常磐毎日新聞社
印刷所 常磐毎日新聞社

星先生の全貌 (終)

衆議院議員 伊藤 仁太郎

大井先生は、人が金を貰ひに行つた時は其理由を聞いた事がない。事情の如何に構はず、金を出した。持合せのない時には、羽織でも袴でも投出して『さアこれでも典物にして金にするがよ』といふ調子であつた。家人がそれを見て『先生、今日は何々の事件で、裁判所へ出る事になつて居ますが』と注意すれば『よし、裁判所へは延期届を出して置け』之を聞くと、貰ひに行つた者は全く感激して了ふ。が、大井の晩年は振はず、之に反して星は大成したのである。

社会的にあれだけ名を成しても、星の平生は極めて質素であつた。私も時々食膳のお相手をした事があるが、これが盛名天下に晋ぎ人の膳立であるかと思はれる程であつた。夫人から直接聞いた事であるが、食べ物に就てのうまいまづい一度も言うた事がないさうだ。又夫人に對しての話し振りを聞いて居ると、まるで姉さんに

でも、物を言うて居るやうに、丁寧で優しかつた。私は十七年出入したが、其間に呼捨てにされた事は一度もない。明治二十年前後に、大阪からつれて来た車夫で、善兵衛といふのが居たが、これに對しても先生は、常に『善さん』と呼んで居た。外出する時、車の用意をさせるにも、傍の者に向つて『善さんに仕度するやうに云つてくれ』といふのが常であつた。

先生が政黨に關係したのは、寧ろ遅い方であつた。自由黨は明治十四年に出たが、既に十三年から其名は用ゐられて居たし、その前にも、國會開設の請願など、政治運動は盛んに行はれて来たのである。けれど其當時は勿論、自由黨の創立にも關係がなく、既に出來上つて居た所へ入つたのである。

ノート

シャツは柿の葉を煎じて飲むと治る

是より先、横濱の税關長時代に、各國の脱税をひどく押へつけて、英國公使の

水火の難に罹ぬ注意(一)黒移轉々職の念起るも萬事滯すれば控目か吉(三)碧長男長女の不時の怪俄と家内の口舌に注意(四)緑金談に嚴談の件ある可し然し速行は凶なり(五)黄運氣滯滞の日なれば萬事控目か吉なり(六)白我望事に奔走すると雖も約束は凶にして後日破壊となる(七)赤金談縁談共に吉兆を得る雖も後日破壊となるは進まぬか吉(八)白病氣怪俄に注意して現狀維持か吉(九)紫水火の難に注意して忍耐以て努力すれば後日吉

【朝】すま汁ーねぎーさつま芋
【書】さしみー鮮魚
【晚】信田巻ーしろうり 信田巻

省御雇の代言人になつた。今になつて見ると馬鹿々々しい話だが、此名稱が利いて非常に流行つた。司法省御雇といふのだから、此人に頼めば何んでもうまく行くだらう、と考へたのであらう。所が實際は敗けた訴訟が多い。而も料金は思ひ切り高く、規定書が玄關に掲げてあつたが、それに従つて、ビシビシ徴收した。それで約十五萬圓ばかりの金が出来た。

地相 家相 人事 鑑定

平野 高野 島野 澤野

町島 堂島 前島 所象

易断 断定

十五、日、發、丑、五、黃、大、安、取、る、

【一、白】總て約束事は凶なり

市原醫院

平町田町 電話一四四番

三井タクシク

平町二丁目 電話八六五番

井坂醫院

平町田町 電話五五九番

◎入院隨意

專門 婦人科 產科 花柳病科

磐城セメント會社特約店

久全屋商店

磐城平町五丁目 電話九番九九番

□良品廉賣に勝る商略なし

□確實敏捷は久の生命なり

玉炭 炭 平驛前

石炭 炭 阿部石炭商店

コークス

電話三七番

皆様 今年の元には何品を御撰びになりませうか。

先づ御家庭様からも喜ばれます

京茶器と銘茶大勝園をお撰び下さい。

茶器 壹揃 金二十八錢より

名入大勝園 四半斤 金三十二錢より

三丁目

大勝園

電話三九六番

愈々舊盆も近づきました御新佛の戒名入提灯を御注文下さい

角形 經六、〇センチメートル 一對房付十五圓ヨリ

五、三同 同 九圓五十錢ヨリ

四、五同 同 六圓八十錢ヨリ

四、二同 同 五圓五十錢ヨリ

三、七同 同 四圓八十錢ヨリ

三、四同 同 三圓二十錢ヨリ

瓜形 經四、六同 同 三圓五十錢ヨリ

四、二同 同 二圓五十錢ヨリ

三、六同 同 二圓ヨリ

尙御好みにより値も品も色々に調製致します。御話下されば早速見本持參御伺致します。

平町四丁目

スガノヤ提灯店

電話九五番

女給さん—數名

優遇大至急募集

新築落成—十四日開業

カフェー平樂新館

平町二丁目角

電話二九六番

月曜是非

棄權數は如何に

苦熱の選挙戦も漸く終つた、けふは総決算の日である。民政何れに軍扇が揚るかは熱の乗らぬ政戦であつた。文、兩派共に見通しがつかず、互ひに取らぬ狸の皮算用に悲喜交々の間を往來して居る。

勝敗は何れにせよ、今回の選挙戦を見るに、言論戦に主力を傾注して、投票買収の如き慣用手段は全々構じられなかつた模様である。是れは兩候補共に軍費難より來つた必然的結果であらう、又戸別訪問が激しく演じられなかつたのは暑中の補欠戦といふ實に分の悪い選挙戦であつた處から、一般に氣乗り薄の態で熱の昂がらぬ事に依る。斯ふした過程の許にけふ最後の日を迎へた今回の補欠選挙は恐らく棄權が三割内外に達すであらうと選挙通は見ている。

然らば此の棄權數が民政何れに多きか、寧ろ當落の運命は懸つて棄權の數にある、實に變態的の奇現象と云はねばならぬ。而して棄權數の多いのは今回の選挙を忌避する氣持ちから出發するのである事を思ひ、最初政友派から提言した無競争擁立が矢張り選挙民の意志に添ふ所以であつた事が立證される譯である。是等種々な意味での興味から吾々は當落の結果から

に棄權數の多寡如何に多大な關心が持てると思ふ。

正午迄の投票數

僅か四分の一

例に依つて一番乗り詰掛く

棄權數豫想以上か

縣議補選最後の審判の日けふ、平町では我れこそ一番乗りの投票を試みんと夜明け頃から町會議室の投票場前に詰め掛けた熱心家もあるが、紫組は胡摩澤の柴田長之助君、赤組は長橋町の三瓶昌照君、白組は材木町の大平重君等が夫々一番を占め投票箱の中を改めて機嫌をよくし、立會人席には見られて居る。

町村吏員を指導

平町と植田に招集して

本縣では石城郡各町村に於ける稅務及び地方制度等の指導の爲め平町は來月八、九兩日、植田は同六、七の兩日夫々町村吏員を招集講習會を催すが各町村の招集區域左の如くである
(植田町) 植田 泉 渡邊 錦 勿來 上遠野 入遠
(平町) 飯野 夏井 高久 豊間 鹿島 内郷 好間 赤井 永戸 神谷 草野 大浦 四倉 大野 平窪 小川 川前 澤渡

産業組合の發達を

講ずる爲め職員會組織

既報石城産業組合部會の職員事務研究會は昨十三日植田藪市場に開催組合經營法及び記帳法等を究研後各組

川中書記 平福田書記 綿近藤書記

小學兒童

体育競技

石城郡第四區小學兒童體育競技會は來る九月十六日午前八時より草野小學校々庭に於て開催されるが参加校は草野、四倉、夏井、神谷、大野第一、第二、大浦、高久、豊間の九校である

豫定儀に達せず

小麥の入札延期

既報石城産業組合部會では明十五日正午より同所にて第二回小麥共同販賣を行ふ筈であつたが入札豫定儀たる五百俵に達しないので十六日正午に延期された

郡山名紡

既報遠來球運拙し郡山名紡を迎え古川炭礦の野球試合は昨日午前十時より古河グラウンドに於て行はれ

Table with 2 columns: 名紡 (Name) and 名 (Score). Rows include 030221201, 123456789, 080010210, etc.

木村外科醫院 門專 院醫科外村木 柳花科病科 院醫科外村木

高久病院 院長醫學士 高久忠 副院長 新瀉醫學士 赤羽清 藥局長 藥劑師 佐竹菊雄

貸切の御用命は!!! 獅子吼(四四九)ノ勢ダ マツサキ 眞先ニ (マツサキ) 三九ニタクシーへ!!!

男女安全豫防藥 新發賣 志のぶ錠 阿康藥舖 妊娠を望む方は使用すべからず

子供が

魚につらる

二日後に屍体発見

石城郡上遠野村字大瀧地内 鮫川に去る十二日午後六時頃十才位の子供が溺死して居るのを通行人が発見し届出により植田署員が検視の結果右は田入村大字黒田字鹽野安藏三男小宅傳(一)で十日午後四時頃同川畔で魚釣り中墜落溺死せるものと判明した

鐵屑を窃取 石城郡内郷村大字高坂字御殿居住福岡縣生れ新開ワカ(四)及び同字居住佐藤つるよ(三)の兩名は去月中より磐城炭礦高坂ズリ捨て場より鐵屑を窃取した事發覺平署に檢舉された

ブリの大漁

一擧三萬七千圓

豊間の大敷網に掛る

石城郡豊間村の大敷網漁業は最近不漁續きに祟られて居たが昨十三日同沖合にブリの大群が現れ忽ちにして

二萬五千尾の大漁を見たが水揚相場は一尾一圓五十錢にて總額三萬七千餘圓に達し濱を賑はした

一時通行を止めて

縣社裏道路の工事を急ぐ

既報平町の本年度匡救工事である揚土臺縣社裏通學路は本十四日より着手する事になつたので今十四日より十一月三十日迄一般者の通行を禁止して工事を急ぐ事なつた

夏井青年役員 石城郡夏井村青年團では来る廿

石城城植田町人車周旋業小野寅吉は茨城縣多賀郡磯原

町醫師瀧五郎、町料理業市原ミツ等と共に謀して去る四月九日小名濱町料理店寺西セイ方へ胸の病を持つた酌婦土橋フミを前借百九十圓で住込ませたとて平署に告訴さる

城山競射

優勝者氏名

既報昨日の平城山弓友大會主催の尺二的八射及び第二回優勝カップ爭奪戦は平町中根秀次郎と四倉町佐藤藏之助兩氏の決勝となり大接戦を演じたが遂に佐藤氏が優勝した因に入賞者は左の如くである

- (競射)平鈴木勝明 四倉
- 佐藤藏之助 平小野茶彌
- 湯本長漸富八 夏井鈴木
- 清太郎 平飯田近治 平
- 窪會田三三 平松崎敬二
- 平中根秀次郎 同高田平

明日児童を召集

若し事故不參の際は

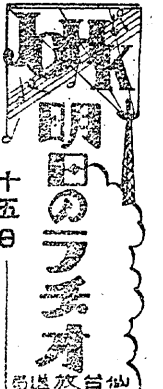
平町第一、第二、第三各小學校では明日一齊に全校児童を召集し夏休み練習帳の検査及び身體の状況等を調

點呼の終了後に

模擬演習を行ふ

既報平町本年度簡閱點呼は昨十三日午前七時より第一小學校に於いて執行、欠席僅か九名にて二百九名の出席を見る好成绩を示し時節

柄執行官山肩少佐の點呼嚴格を極めた、尙終了後特に在郷軍人分團と點呼参加者の模擬演習を行つた



今夜は東風驟雨 模明日は南西の北 風晴曇半す

今晚の部

- 後六、〇〇(子供の時間) ラヂオ夕涼み(第二日)
- 「嚴島のキャンピング生治から」FKコードモサークル
- 指揮 倉田三朗(嚴島杉之浦キャンピングより中継)
- 後六、二五「傳説と史蹟を採って」(一)松浦佐用姫(吉村茂三郎)
- 後七、三〇 産業ニュース
- 第二師團長 東久邇宮殿下御着任奉迎の夕
- 八郎(揚的)平高田平八郎

平青年幹部

けふ協議會

平青年團にては本日午後七時よりマルトモホールに於て幹部會を開き來る九月十日磐中グランドに於て開催される郡下青年團對抗陸上競技及び武道大會出場選手詮衡の件其の他種々協議すると

裁判所だより

▽石城郡山田村大字富澤大平武(三)が去る十日午後六時頃同字齋藤八郎方の葬儀の歸途かねて犬猿もたぐならぬ仲にあつた同村高木金兵衛(三)に出會ひ口論の末混棒で強打重傷を負はせ遂に死亡せしめた事件は本日一件書類と共に送検され清田検事係りの下に取調べの結果傷害致死罪として起訴され直ちに豫審に廻附され

揮 澤口忠左衛門 後八、三〇(民謡) 本 桃園 阿部清月 八卷幸治郎 後八、四五ラヂオドラマ 「波浪」岡田嘉子外大勢 後九、三〇時報ニュース 氣象通報 番組豫告

明日の部

- 前六、三〇 趣味の歴史講座 「西洋史上に於ける人類進歩の思想」東此學院高等學部教授 高里良恭
- 前七、三〇 夏期ドイツ語講座(十) 三浦吉兵衛
- 前八、〇〇 孟蘭盆會法要
- 前八、五〇 全國中等學校優勝野球大會(甲子園野球場より中継)
- 前九、一〇 料理献立(孟蘭盆會)

平職業紹介所報告

- 回人を求める方
- △鍊炭夫 十五才 尋卒 月十圓位(東京市某)
- △小店員 十五才 尋卒 給料面談(平町某)
- △雜夫 三十迄 月十圓外 面談(四倉町某)
- △農夫 三十前後 委細面談(飯野村某)
- 回職を求めめる方
- △仕上工 十六才 高卒 給料面談(湯本町某)
- △給仕 十七才 高卒 給料面談(内郷村某)
- △菓子製造工 二十四才 高卒 給料面談(茨城縣某)
- △電工 十八才 高卒 給料面談(平町某)

品質第一

電話二六八番

平搾乳所

平町・九品寺前

看護婦急派の求めに應じます

平町南町 平看護婦會 電話三〇七番



【禁無斷轉載上演映畫】

寶井馬琴演
山本英春畫

第十五回

血に飢ゆる村正

女難に會つた村

京都の町を一通り見物が終ると、國廣が村正に向つて

國「一日二日御休息なすつたら、一つ相州流の刀の鍛へ方を見せて頂きたい」と頼んだ、村正快く承諾して、それから早速劍を鍛え始めました。夫を見て國廣が「ア、此人は口も八丁手も八丁豪いものだ」と大層感心をした。そこである晩、飲みながら村正に向つて

國「さて村正殿、貴方に少しお願ひがあるが承知して下さいませんか」

村「何でございます改まつての御頼みといふのは」

國「外でもないが、手前には御承知の通り松江といふ妹がございます、之をどうか刀鍛冶の處へやりたいと豫て心掛けて居りましたがどうも相當の縁がありません、どうでしょう貴所貴つて下さらないか、さうすれば私と兄弟といふ事になり誠に私も嬉しいが」

と、村正も

村「手前のやうな者に大切な妹御を下さらうといふお志しは有難いが、三十

越さない内は妻帯をしてはならぬといふ師正宗の戒めもござるから、まだ一兩年早い、折角だが之はお断りしましょう」

國「イヤ妹には夫となく尋ねました處が、大分妹も貴所を褒めてをりますから其の点は受け合ひます、兎に角さう事が極つたら、之は改めて兄弟固めの盃、イヤお受け取り下さい」



約束だけして置いて下されば結構」

村「さまでに仰しやつて下さるのなら、頂戴としても宜いが、外の事と違ふから御本人の承諾を得なければ……」

所がある日のこと、國廣も女房のおあきも不在で、留守は妹の松江が萬事やつてゐる。村正は膳に向ひ一人でチビリ／＼酒を飲んでゐると、丁度点燈頃だ

支度をして新町の柳家へ女中の案内で奥まつた座敷に女「アノ此方でございますどうぞ御緩り、オホ、何可笑しい事はないのに笑ふ、變な女だと思ひながら、唐紙をガラリと開けて見ると、盃盤が取亂してあつて、突當りに居るのは國廣かと思ふと、女房のおあき

あき「オヤ村正さん、能く入らして下さいました。只今まで國廣が此處に居りましたのでございませうが、一寸急用があつて出掛けました、直さま戻つて参りましょうから夫まで妻がお對手を致して居ります、サア召上つて……」

仕方がないから村正それへ座つて盃を受けたが、二杯重なる内に、おあきは段々村正の方へ摺寄つて来て、突然村正の膝へ手をのせたから、カーツとした村正が、その手を振拂つて、ハツタとおあきを睨み付けた。

「正木織物店ノ生命也」
絹織物ノ正木織物店へ
開業三十五週年を祝するため
二割引にて大々的勉強御註文に應ず
御註文ノ時ハ(呼出六七四番)へ店員伺ヒマス
平町字新町貳貳番(公園下)

白生地 賃織販賣 正木織物店

外科 X光線科
性病科
外科

入院隨意

平町田町

安齊外科醫院

電話四七五番

吉田眼科病院
平紺屋町、電話六八番

お醤油は ヤマフル

醤油味噌
たひら正宗
鯉節 食料品



山崎合名會社
福島縣平町(電話營業部)醸造工場
明治生命磐城代理店 山崎與三郎